

# 「最澄作」の薬師如来 12年ぶり開帳へ

葛飾の浄光寺 開山150年記念で来月



開帳される薬師如来座像が納められている「宮殿」と伊藤住職

「木下川薬師」として親しまれている葛飾区の天台宗「浄光寺」（東四つ木）の開山1150年を記念して、天台宗の開祖・最澄が彫ったと伝えられる「薬師如来座像」が10月、12年ぶりに開帳される。

薬師如来座像は、高さ約70センチでヒノキの寄せ木造り。普段は「秘仏」として本堂の奥に納められている。

10月10日から始まる開帳の期間中は、江戸時代に同寺とゆかりが深かった徳川将軍家の「三ツ葉葵」の家紋や龍、獅子、鳳凰などが刻まれた華麗な厨子「宮殿」の扉が開かれ、平安時代から悠久の時を超えてきた薬師如来座像の全身を拝むことができるという。

同寺に伝わる古文書「佛像縁起」などによると、最澄作とされる薬師如来座像は、実は未完成のまま最澄の手を離れ、同寺がある場所に運ばれてきたという。

伊藤義延住職によると、薬師如来を徳川家康の権化として崇めていた徳川家歴代将軍が訪れて開帳された際も、未完成の下半分は屏風で隠されていたという。

12代将軍・家慶が最後に

参詣してから145年ぶりに行われた前回の開帳でも、全身が公開されることはなかった。伊藤住職は「ご本尊である薬師如来座像の全身が開帳されるのは初めて」としている。一般参詣は10月12日～17日。